南種子町の原田晃生さんは、地元の高校を卒業後、農業大学校へ進学し、その後、茨木県の鯉淵学園に編入。農畜産業の知識を学び、栃木県の畜産関係の企業に就職しましたが、平成25年、父親の農業引退を機に種子島へUターンし就農しました。

年々、作付面積を拡大し青果用サツマイモ300アール、バレイショ60アール、水稲30アールを一人で生産、出荷しています。

現役農家から技術を学ぶ 日々の会話が成長への鍵

原田さんは就農当初、父から受け継いだ青果用サツマイモとでん粉原料用甘しょを作付けしていましたが、種子島の基幹作物であり、知名度も高い安納芋に惹かれ、青果用サツマイモ一本に絞りました。

就農3年後には、振興会や部会の役員を務めることで、現役農家とコミュニケーションを図り、生産技術を学びました。自分に合った作業工程の模索や生産技術の向上に熱意を燃やしています。

原田さんは「振興会で現役農家の技術を知ることができた。日々の農業の話が技術習得への近道になった」と話しました。

醍醐味は畑にあり 一面に広がる農産物は絶景

生産技術の向上に熱意を燃やす原田さんですが、過去に大きな失敗を経験しました。

「から虫が数匹見えたが他の圃場の点検もあり、農薬散布を1日遅らせた。翌朝見てみると畑一面が茎だけになっていた。ショックを通り越して面白い体験ができた」と笑っていました。

原田さんはこの経験から、数匹見えただけでも油断できないと管理作業を徹底。緑一面のサツマイモ畑を見ることが目標になりました。「農家の醍醐味は高収益を上げるだけではない。畑一面に広がる緑の葉が正に絶景。この景色を見れるのは農家だけだ」と話します。

農業の魅力を伝えたい 若い世代へアピール

失敗も笑いに変える原田さんは、振興会役員を務めることで、農業について深く考えるようになったと言います。「もっと若い世代が種子島を盛り上げてほしい。地元の子供たちが関心を持てるような美味しい農産物を生産し、農業の魅力を伝えたい」と熱意を燃やしています。

10月の運勢
モナ・カサンドラ

牡羊座
3/21
～4/19

【全体運】対人運が活性化。気持ちの触れ合いを大切に。仲良しが増えそう。ちょっとした工夫が幸せを運んできます
【健康運】無茶はしないで。安全を確認してから
【幸運を呼ぶ食べ物】ジャガイモ